



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第10号

徳島 1915年11月28日

イスラム教に対するドイツの立場（1）

いまだに学校時代の歴史の時間に受けた、「トルコの危険」、「トルコ戦争」、「トルコからの解放」という言葉が我々の記憶に生き生きと残っている。それどころかこう言うことも出来るかもしれない。つまりまさにこの時代は、学校での授業で現代史と比べて非常に大きなスペースが与えられているという状況を鑑みると、それより少し後の時代の重要な出来事より、ずっと良く知られていると言えるであろう。

上述の概念はまだ我々の記憶に実に確固として残っているので、我々が今トルコと言葉の真の意味で一緒になって戦うのを見ると、多分多くの人は少なからず驚くであろう。我々は中世では、ドイツ人の部隊がスペイン等でマホメット教の人たちと戦うのを見た。十字軍は「異教徒」から聖なる墓を取り戻すために、パレスチナ及び小アジアのイスラム人に対して武

装した。

しかし歴史においてはこうも言われている。「時代は変わる。」宗教が炎と剣によって広められた時代は恐らくは永遠に我々の背後にある。地球上の様々な宗教は互いを知り、部分的には多分また理解しあった。今ではもっと大規模で紛れもない宗教戦争を行うことは多分考えられないであろう。宗教の自由の原則は、我々ヨーロッパの国家では次々に成し遂げられそして完遂され、ますます世界規範の場を占めている。そういったものとしての宗教はそれ故我々の現代的な概念によれば、いまや政治的な分断理由として見られることはほとんどあり得ない。我々の敵の系列には地球上の全民族地図だけではなく、同時にほとんど全ての宗教と信仰に出会う。

しかし疑いもなくマホメットは我々の今日の大宗教の中で、信者の内にまだ政治的に最大の統一的な力を有している。イスラム教は他のいかなる宗教以上に剣を信仰の手段として用い、また今日特にアフリカの部族の間には、まだ宗教的に絶対的に不寛容な民族がいる。

この宗教の政治的な力を理解するために、とりわけ次のことを明らかにしなければならない。つまり唯一の比較的大きな、今日でも独立したマホメット教国家、トルコの支配者が同時にマホメット教会の首長であること、すなわちその折々のトルコのスルタンが同じく全マホメット教会のカリフなのである。

何故ドイツとトルコの利害がこの戦争で歩調を合わせているのかは、すでに先の記事が取り扱っている。今日はどの程度までドイツが、自身をマホメット教の友人と称する権利を有しているかについて解明を試みてみよう。

コンスタンチノーブルにおける最近のオスマントルコの支配者たちは、外国の支配の下で暮らしている同じ信仰者の庇護者の役目を得ることに成功していた。マホメット教徒の宗教的慣習では、この事実はミサの間にカリフたちへの請願が語られることによって表明される。このことはヨーロッパやアジア及びアフリカの、現在はトルコの支配地域や、あるいはか

つてのトルコの領地においてだけではなく、全マホメット教世界、すなわちペルシア、マホメット教地域のインドやモロッコ等においても生じている。

つづく

日本の宗教（１）

元来の日本の宗教の本質は自然崇拜と先祖の祖先崇拜にある。この宗教に対して当初は何ら格別な名称をもっていなかった。大陸から仏教が入りこんで初めて、仏陀の道である仏の道との違いを示すために、その宗教を神道、すなわち神々の道と表した。自然神の中で太陽神天照は最高の崇敬を受け、天照と並んで雷神、五穀神、風神、海の神、火の神等々に祈りが捧げられた。皇室の祖先の女としての太陽祈願に、祖先崇拜への移行が見られる。やがて亡くなった者たちは誰もが霊ないしは神・カミとして崇められた。日本のほとんどの家々には、神道の神々の祭壇とともに亡くなった親族を追想する銘盤があり、それに捧げ物が供えられ、祈りが行われる。カミは一般的な信仰によれば、別の世界でこの世の意識と感情を備え、食事と飲み物への喜びを抱いて生き続ける存在である。彼らには様々な階級があり、最高位にある者たちには一般に公的な崇敬が与えられる。ミカドは亡くなった者たちを、国家ないしは人類への大きな寄与によりカミの地位へ高める権利を持っている。

彼らにはまた同時にカミたちより低いなんらかの地位が与えられた。神道信仰はその信者に国の掟に対する従順と国の支配者への尊敬を要求する。死後の生活に神道は更に入り込もうとはしない。神道は確かに、人間の魂は肉体からの分離後さらに生き続け、善悪を行う力をもつと教えている。しかし魂の報いが待つのか、罰が待つのかを問うことはない。宗教哲学はまったく形成されなかった。不浄と罪悪の概念は、内面生活を送る人

間を念頭に置いてはほとんど発展しなかった。規範はむしろ宗教的な意味での人間の不浄化を避けるために、ある種の外面的な慣習の観察に限定された。これらの規範の影響には多分主として、日本民族のあらゆる層における、比較的大きな清浄好みを与っているのかもしれない。

神道は礼拝のための如何なる統一共同体もつくらず、また心の欲求を求めて集まる信者の前での如何なる説教も行わない。神聖に近づく者は自分が来たことを両手を打ち鳴らすか、または入り口の扉の前で鐘もしくは鈴を付けた綱を引くことで認識させる。格子のある櫃にお賽銭を投げ入れ、眼に見えぬ神に祈りや祈願を告げる。神官の影響はこの際ほとんど全く除外される。神官は社の清掃維持に努め、日々飲食の捧げものを用意するだけである。それは強制されるのではなく、特定の社に結びついた役職は通例代々息子に引き継がれる。

つづく

第1回演劇の夕べ

ルートヴィヒ・トーマ作『8月1日』¹

先週月曜、我々の劇場では冬季演目の時期が始まった。主催者はオープニングの作品としてトーマ的一幕物『8月1日』を選んだ。彼らはそれによって、我々の優れた詩人に近づき、我々に真に良いものをもたらそうとし、またそれが出来ることを示した。彼らは束の間の成果には満足しない一束の間の成果はどんな茶番でも確実だろう—そうではなくて彼らは我々の深い泉から湧き出て、心を閉ざさない者には誰にも長く持続する喜びとなりうる楽しみを用意しようとしている。

ルートヴィヒ・トーマの『8月1日』は、登場人物の抜きん出た面と倫

1 この作品は1915年に書かれた作品で、一年もたたないうちにドイツから遠く離れた日本の収容所で上演されたことは注目に値する

理的な力によって楽しませる。我々の誰もが嬉々たる誇りをもって、ここにはドイツの男たち、ドイツの女たちが再現されていると感ずることが出来た。作品の舞台はバイエルンで、古いバイエルン方言で書かれている。標準語による再現によって作品がその素朴さを失ったことは間違いない。しかし我々はこのことは確信している。つまり「1914年8月1日」は全てのドイツ人の心に、作家がこの作品で昔のバイエルン人に言わせているのと似たような感情を解き放ったのである。その限りにおいて標準語での再現は、何ら障害となるものではなかった。もし我々の芝居が、方言による上演という困難な課題に近づけるほどに完璧であれば、勿論素晴らしいであろう。上演はこの目標が必ずしも高度に設定されてはいなかったことを示した。主役たちは我々の若い劇場グループの榮譽に充分値する、力量のある者に割り振られていた。飛び切り我々に気に入ったのはゲシュヴェントナーその妻だった。ゲシュヴェントナー役のオール二等砲兵は、理解力の確かさと愛情溢れる仕事を手にとって分かるように演じた。彼の演技は卓越したオルガンで頂点を飾った。ゲシュヴェントナーの妻役のカイム二等砲兵は、どんなことでもオールに負けなかった。役の理解は自然な表情演技と高い声で支えられ、彼にはこの上なく素晴らしい希望を抱かされる。バンティーン二等砲兵はマルティンを、またクルツケ予備二等砲兵は若いハンスを明らかに非常にうまく演じた。彼等の演技の中では、年寄りと若者の性格面での特徴がいわくありげに表出された。ハンス二等砲兵のレーニとボンナー二等砲兵のゼッペルは、優れた演劇の才能を覗かせた。端役の演技も同様に十分に認知された。集団における動きと自然らしさがあった。残念だったのは舞台照明で、特に始まりにおいてはまるで駄目だった。その照明の下では、取り分け老マルティンの演技はひどく損なわれた。

要するに我々の若い俳優たちの素晴らしい成果だ。故国で同時体験できなかった1914年8月1日を、このようにありありと身近にもたらしてくれた彼らに感謝せずにはいられない。

スポーツ

我々のスポーツ行事の関心の焦点にあったのは、今週のファウストバル賞金試合だった。

今回 4 チームが名のりを挙げ、その内の 4 番目のチームは勿論スポーツ週間の直前に結成され、そのために僅かしか合同練習が出来なかったのだった。他の 3 チームは大体において先のスポーツ週間と同じであった。我々は一連の実に優れた試合の目撃者であった。大きな成果をあげたのに、先のスポーツ週間で用意したボールの数が十分でなかったのは、我々が今回プレーせざるを得なかった広場が、ファウストバルにとっては充分適したものではなかったからだった。

特に良かったのは第 1 チームと第 2 チームの試合で、前半終了時点で第 1 チームが 56 対 52 でリードしたが、一方後半では第 2 チームがこの優位を挽回し、更に 1 ゴール上回り、最終的には第 2 チームが第 1 チームに 1 ゴール差、つまり 128 対 127 で勝利した。第 2 チームは第 4 チームに既に勝利し、最後の試合でも第 2 チームは第 3 チームを打ち負かすことができたので、この競技の勝者となった。

ハードル競争で勝利したのはクロイツ二等砲兵でコースを 15 秒で走り、プリンツ砲兵軍曹長とアウアー一等砲兵はともに 16 秒、予選で勝利したのはアウアー一等砲兵だった。

リレー競争をめぐる戦いではみんなが熱くなった。優勝チームアウアー一等砲兵、バウアーファイント、カウマンズ、クロイツ二等砲兵はコースを 49 秒で走った。

もし天候が我々の計画を潰したりしなければ、今日 6 種競技が挙行されるであろう。賞金割り当ては日曜夕方のコンサートに予定されている。

第 27 回コンサート

1915 年 11 月 28 日

演奏曲目

- | | |
|------------------------|----------|
| 1. プロイセンの栄光 膠州砲兵隊分列行進曲 | ピーフケ |
| 2. バレー『人形妖精』からの大ファンタジー | F. バイアー |
| 3. オペラ『ホフマン物語』からの舟歌 | オッフエンバック |
| 4. ポピュラーミュージック | L. レンケ |
| 5. 時代に合った笑劇『特別新聞』 | W. コロ |

開演 7 時

この夕べ用の分厚いプログラムは全ての曲目について解説と歌詞付で、ホール入り口にて価格 10 銭で購入できる。収入は再び劇場金庫に納付される。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 63 問の解答

1. Sd5 - e3 任意の手
2. D か S で詰み

第 64 問の解答

1. Dg1 - g5 Se6 x g5.
 2. K.b8 - c7 任意の手
 3. S, L, b2 -b4 詰み
 1. Kc5 x d4.
 2. Dg5 - d8 + Dd4 x e3
 3. Dd8 - d2 詰み
- 他の変化も容易

正解を送ってきたのはヨーゼフ・ヴェーバー。

第 65 問

白：Kg6, Dc1, La7, h3, Sb4, d2, Bc2, f6

黒：Ke5, Sc5, Bd5, h4

2 手詰め

第 66 問

白：Kd7, Dd2, Tb2, Ba5, b6, c4, c5

黒：Ka6, Sa2, Bb7

3 手詰め

第 2 回トランプ競技会

第 2 回トランプ競技会が木曜日に、ブリッジの試合から始まった。15 ペアが参加した長い競技の後に、アウアー一等砲兵とパウアーファイントの第 1 ペア、及びレンケルー等兵曹とプリンツの第 2 ペアが勝者になった。両ペアは 14 回勝負の内の 10 回で勝利した。

スカート勝負は今月 29 日の月曜朝 9 時に開始される。

我々は日曜夕方に何処へ行くのか？

11 月 28 日：徳島オーケストラによる民衆音楽コンサート

12 月 5 日：ミモザ・カバレットショー

12 月 12 日：第 2 回徳島オーケストラによるシンフォニーコンサート

12 月 17 日：ヒラウト・ボルハウプトの喜劇『生きている肖像』

12 月 25 日：徳島オーケストラによるクリスマスコンサート

16 年 1 月 1 日：ロート・ベネディクスの喜劇『召使』

Uボートの獲物（3）

船長はこっくり居眠りをしている。というのも彼は積荷が戦時禁制品であることを知っていて、そのために疲れきっていたからだ。しかし、ドイツの司令官が甲板から「将校が1名を伴って捕獲船司令官として貴船を拿捕する」と叫ぶと、びっくりして彼は眼を見開いた。その外国人は上手な低地ドイツ語で、「艦長、そんなデカイ汽船じゃないから、貴方という小さなボンコツで俺を拿捕せずにはいられないのさ」と頭を振りながら返答した。

艦長の海軍大尉は将校を汽船に派遣して、捕獲船をもよりのドイツの港ツェーブリュッケへ誘導した。Uボートは航跡に付いて行った。しかし高性能の小型船に吹きつける風は、その獲物を更に増やそうとする。風は捕獲船の僚船を海軍大尉の乗る船の舳へ運び、まもなく二隻目の汽船も、我々の小さな恐るべき物の捕獲命令を受ける。それは全く単純に聞こえる。しかし我々が想像するに、イギリスの駆逐艦は日夜ドイツのUボートを探して北海を巡航している。冷血一点で甚だ向こう見ずなクルミの殻のような司令官にも、すばやい射撃や大砲ないしは水雷艇の砲身で獲物を沈めて、すばやく遠ざかることが得策に思われるかもしれない。しかし海軍大尉は外国の船籍証明書を悠然と通読して独り言を言う。分捕った食料品は陸軍部隊を数日満たすことが出来ると。またまもなくイースターだ。捕獲船の積荷は100,000個の鶏卵と500樽のビールを隠している。そうなれば塹壕で戦っている我々の部隊の戦友たちに引き出物として歓迎されないことはないであろう。自分の兄弟も中隊長として彼らの中にいるのだ。こうして彼は思い切って大胆な行動に出る。2隻の捕獲船の獲物とともに彼は、最初のUボート司令官としてツェーブリュッケの港に入り、捕獲船を連れてきた。その行為を「潜水艦の勝利」とイギリスの新聞は呼んだ。

つづく

来週のお勧め品

極上 ウィンナーソーセージ	7 銭
極上 ガーリックソーセージ	35 銭
謹白	オットー・ハンナスキー

手 紙 (8)

フランスの H. にて

愛するアンナ！

僕にハンモックを送るということはしてはならなかったんだ。というのもこれが葉巻なのか、それともペン拭きなのか分かっている者はいやしない。ひょっとして君が自分の思いで戦鬪の混乱の中で分かりはしないと考えていれば、それは君の間違いだ。兵士は見事なセンスを持っていて、彼は薄暗がりの中でも、それが葉巻なのか、それともペン拭きなのか感じとる。たとえ料理女のハファンナーがそこに文字を書いた腹帯をしていても。君がしたようにね。それで僕は君を非難しなくちゃならない。これは反愛国的行動だと。もしかするとレーマンとこのヴィリーとなら出来るのかもしれないが、僕とはだめだ。僕はレーマンとこのヴィリーのように任意の誰かではなくて、ハインリヒ・クネチュケだから。

愛するアンナ！そこで今悲しい連絡をしようと思う。例の葉巻はただでは済まなかった。というのも中隊は先週何の慈善の贈り物も受け取らなかったの、中隊では煙草が極度に窮乏し、それで僕の心の中に葉巻のことでダイスを振る計画が浮かび上がった。僕は真っ先にダイスカップを使って4の目を振り、それで僕は4回葉巻を吸うことが出来た。ねえ君、ひょっとして僕が4の目を出したことは、まだ多すぎたんだ。それからこ

れも言う必要があるが、4回葉巻を吸うためには誰かがへまをしなければいけない。多分君に分かるだろうけれど、僕はへまなどせずに見事に楽しんで後、いつも激しい吐き気を起こし、それで弾薬車の後ろに泡だらけで出て行った。しかし元の場所に戻ろうとした時、僕は第2中隊の1年志願兵に会った。そいつは緑色の葉巻を持っていたが、彼は12の目を振ったのだった。でも僕はそいつが吐き気を感じて弾薬車まで行ったとは思わない。というのもそいつは甘えん坊なのだ。

愛するアンナ！それで僕らはその後葉巻から手を引いた。それで葉巻を第3中隊へ寄付した。というのも第3中隊は最近ウナギの燻製を手に入れた。それは一年志願兵が背囊に持っていたものだ。でそいつはそのために罰せられるに違いない。そこで僕は出かけて第3中隊に葉巻をくれてやった。それで中隊はその夜、僕を殴って葉巻みたいにするために、6人逞しい奴を送り込んできた。もしかすると君が葉巻を使って仲間内の争いをそそのかしたのでは。というのも僕が第3中隊から殴られることはないんだ。でも突然出動命令が来て、僕らは争いごとを打ち切って、100メートル前方に新たな塹壕を掘るために、葉巻を残して出発した。君は信じないかもしれないが、僕は葉巻から離れて激しい喜びを感じた。

愛するアンナ！そうだと、パイプだ！それから朝方僕たちの砲兵中隊が沸きかえって入場してきた。その後まもなく砲兵中隊指揮官の素晴らしい挨拶で締めくくられると、大砲は葉巻で栓がされて、僕たちはもう一度そんなむかむかする煙草酔いに打ち勝つと、指揮官は火酒をあおって発射する。すると中尉殿が言った。クネチュケ、葉巻がとんでもないことになり始めている。我々はそれをフランス人たちのところへ持っていかなばなるまい。それで僕は野ウサギを捕まえて葉巻を巻きつけた。それから僕たちは激しい喚声や闇雲の中を砲撃して、そのウサギをフランスのムシューのところへ追いたてた。

愛するアンナ！そいつ等は格式ばらない民族で、天使のようにきれいにすると礼儀正しく振舞う。しかしこれは間違いだ。そいつ等は2日続けて

きれいにすることは出来ないと大口をたたく。多分いまや君も、これは驚いた「へえー」と密かに思う時、何故僕たちがそいつ等をこらしめたのかが薄々分かっただろう。それからウサギの件が起こって、僕たちも銃剣を持ってフランス語を話す奴らをエーヌ川の向こうへ追い払った。それでそいつ等はもしかすると密かに、これは4週間続くと考えたかもしれない。しかし今や我々が敵の陣地を占領する間、僕は地面に横たわっていた一人のフランス兵と遭遇した。その男は激しく呻いていて、それで僕はその男に包帯を巻くために衛生兵を連れてきた。すると衛生兵は、この男は負傷しているんじゃないくて、ニコチン中毒に罹っている、と言った。

愛するアンナ！僕が長談義をするつもりがないのは、葉巻が再びそこにあったからだ。それはニコチン中毒のフランス人ムッシューの脇にあった。ねえ君、ひょっとしたらこれが始めてだったので、激しい感激に襲われたのかもしれない。そしてこれは飛び切りの葉巻だ、とそいつはぼそっと語った。でも僕がそんな迷信っぽい、たわごとを考える心情を抱いているなんて思わないで欲しい。そうではなくて僕が言いたいことは、そいつは古いフェルトのスリッパのような趣味を持つ糞野郎だ。そいつは地面から馬で引き出させなければならぬ。それから僕はそいつを重砲の口に詰め込んだ。そいつはそこで砲撃の休みの後で多分何かを体験できる。

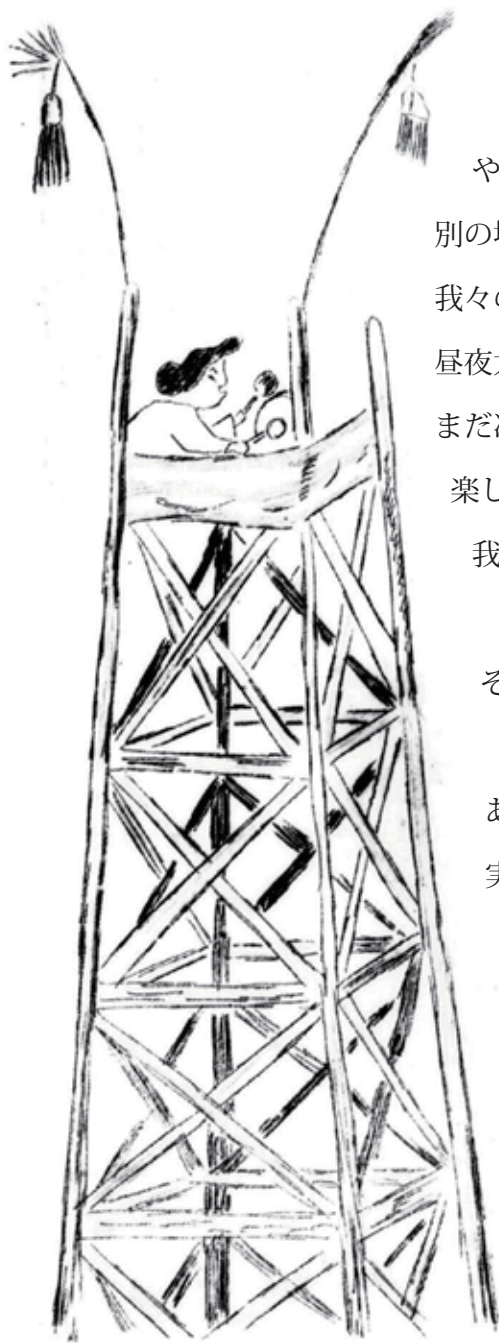
愛するアンナ！しかしそいつが偶然のお陰でそこから来る事が出来るかは誰も知りはない。それで僕は煩わされずにこの手紙を書くために、アカシアの木によじ登った。君の方はもしかすると、次には僕に愛の贈り物を混ぜることが出来ると思っているかもしれない。僕はどう考えてよいものか、これではハファンナーで、そんなことじゃ、キャベツの葉が一枚絡まった古い箒に過ぎない。それで君に言うけど、君はそんな風に見えるぞ！

こう考えて君にキスを送る君を心から愛する

ハインリヒ・クネチュケ

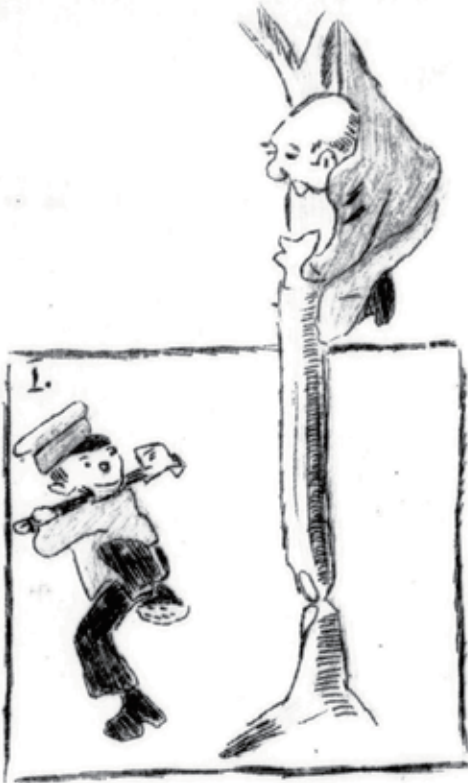


スポーツ週間「走り高跳び」から



格闘技

やっと一団は今いなくなった
別の場所に向けての行進だ
我々のために一週間
昼夜太鼓を響かせて
まだ冷氣漂う朝まだき
楽しい感情を
我々に呼び覚まし、
生み出しはしなかった。
そんな感情からは存分に
逃げていた。
あらゆる種類の四股名を
実際惜しみはしなかった。
ベッドの中で心地よさに
満ちて
朝まだ横になって
眠っていると
司令部の命を受けての
命令を受けて起こされた



やつを
捕まえられる
はずなんだ。
もしも ...

どんな愉しみ、どんな愉快さ
毎日この太鼓の響き
倦むことのない感情で
彼は太鼓を打ち鳴らす
ある詩人がこう言っているのに。
人間と動物は絶望を知ると。
様々な騒音が
ここではすでに時と共に仮面を被り



イラストレーターが
救いの手を
差しのべさえ
しなければ！

汽船は日々霧笛を鳴らす。
それから鉄道が、あー、なんと、
それも生暖かい夏の夜に
セレナーデを僕たちに運んでくれた。
猫の群れのように犬たちは
すでにたけり狂っていた。
家中どたばたがなりたてて
先ずは王冠を置き給え
この荒れ狂う太鼓打ちの上に。
「やれやれ有難い！」彼らは行ってしまった。